

# むきぼんだ花だよ！ 6月

2018. 6. 2



アカネガシラ(赤芽梅・赤芽桐)、トウダイアサ科、アカネガシラ属。



ウラボシ(輪草)、フツシロキ科、ウラボシ属。



イワガラミ(岩船み)、ユキノシタ(アジサイ)科、イワガラミ属。



ヤマアジサイ(山紫陽花)、アジサイ科、アジサイ属。



ソヨゴ(戦・冬青・具柄冬青)、モチノキ科、モチノキ属。

◎ソヨゴ(戦・冬青・具柄冬青)、モチノキ科、モチノキ属。雌雄異株。常緑広葉、小高木。  
**○別名:** フクラシバ、フクラモチ、ソヨギ。 **○名前の由来:** 風に戦(そよ)いで葉が特徴的な音を立てる様から「戦」と記名され、冬でも葉が青々と茂るので「冬青」とも表記されます。また「冬青」は常緑樹全般に当てはまるため「具柄冬青」とも表記されます。  
**○花言葉:** 先見の明。「先見の明」は将来を見通すと云う意味の言葉で、新築祝い等に、庭木として贈るのにも良い木だと思います。 **○分布:** 中国、台湾及び日本の本州中部、四国、九州に分布し、北限は新潟県と宮城県で山間部に良く見られます。別名の、フクラシバは葉を加熱すると内部で気化した水蒸気が滲出すことが出来ないため、葉が音を立てて膨らみ破裂することから「膨らし葉」が語源になったそうです。樹高3~7mまで成長し幹枝は灰色、葉は卵状楕円形で互生、やや長めの葉柄が有り。葉身はやや革質、光沢がりのつべりした外見をもつ、表面は深緑色で滑らか、裏面はやや薄い色で中筋が突出する。縁は滑らかだが波打つのが特徴です。開花期は5~6月頃雌花は葉脈に単生し、雄花は集散花序に小花が数個まとまり咲く。果実は5~6cmの長柄があってぶら下がりが10~11月に赤く熟すが、モチノキやクロガネモチの様に多数蜜着しない。日陰に強く、成長も遅い樹木として重宝され、公園木や庭木として植栽されています。材は強く緻密なためソロバンの珠や櫛の材料に使われ、また手斧など工具の柄に使われることが多かったことから「具柄冬青」と書かれるようになった。葉にはタンニンが多く含まれていて、褐色の染料に利用されている。また、他のモチノキ科の木と同じように樹皮から「烏モチ」が採れるそうです。  
**★撮影日:** 2018, 6, 2, **★撮影場所:** 仙谷地区、



ウラボシ(輪草)、フツシロキ科、ウラボシ属。



カキノキ(柿木)、カキノキ科、カキノキ属。

◎ヒメコウゾ(姫楮)、クワ科、コウゾ属。落葉低木。

雌雄同株。 **○別名:** コウゾ。 **○名前の由来:** ヒメコウゾは元来日本に自生するもので、これをコウゾとよんでいました。中国からコウゾが渡来し栽培されるようになりますと、我が国自生のコウゾが小型であるため江戸時代にヒメコウゾと名付け区別されました。古代には本種を製紙に用いますが、現在は本種とカジノキを交配して作出された品種「コウゾ」を使用して和紙が作られているそうです。 **○花言葉:** 「過去の想い出」。は、かつて良質の和紙の原料として使用され、日記や書物などを記したことから付けられた。 ●ヒメコウゾは本州岩手県以南、四国、九州、朝鮮、中国南部に生育する夏緑性の低木で低山の林縁等に生育します。葉は5~15cmで卵円形、或いは深裂し樹高数mになります、4~5月に葉腋に球状の花序を付け、果実は初夏にキイチゴの様な集合果が赤橙色に熟し、甘くて食べられます。ゼリー状の食感が有り、多く食べると口中にモザモザ感が残ります。 ●樹皮の繊維は強靱で、古い時代には衣服や網等の材料にされ良質な和紙の原料として採取されたようで、古事記や日本書紀、あるいは万葉集にそのような記述が残されています。  
**★撮影日:** 2018, 6, 2, **★撮影場所:** 妻木山地区谷部、



ヒメコウゾ(姫楮)、クワ科、コウゾ属。



ネズミモチ(鼠籠)、モチノキ科、イダタシロ属。



クワ(栲)、クワ科、クワ属。



カキノキ(柿木)、カキノキ科、カキノキ属。



ヒメコウゾ(姫楮)、クワ科、コウゾ属。

◎ドクダミ (葎草)、ドクダミ科、ドクダミ属

多年草、原産地：日本や中国、東南アジア原産、  
**○別名**：ドクダミ (毒溜め)、ギョセイソウ (魚腥草)、ジゴクソバ (地獄蕎麦) **○名前の由来**：全草に特有の臭気があるため、何かの毒が入っているのではと、ドクダミ (毒溜め) と呼ばれるようになり、これからドクダミになったと云われます。または、毒を抑える意味の「矯める (ためる)」が転じた説も有ります。また香りが魚臭に似ていることから、魚にまつわる英名も付いているそうです。**○花言葉**：『白い追憶』、『野生』。「白い追憶」は、転んだ時に葉を揉んで傷口に当ててもらった、母親を懐かしむことにちなんでいます。「野生」は、特別な手入れをしなくても元気に育つ生命力の強さを表していると言われます。○道端や住宅周辺に自生し、特に半日陰を好む。開花期は5~7月頃。茎頂に4枚の白色の総苞 (花弁に見える部分) のある棒状の花序に淡黄色の小花を密生させる (総苞は実質イミテーション) で、本来の花には花弁も萼 (ガク) もなく、雌蕊と雄蕊のみからなる。繁殖力が強く切れた地下茎からでも繁殖する。**○食用・薬用**：加熱すると臭気が和らぐことから、山菜として天ぷらなどで賞味されるほか、葉を乾燥させてドクダミ茶とし、一種のハーブとしても用いられます。また、生薬として開花期の地上部を乾燥させたものを、十葉 (じゅうやく・重葉とも書く) と呼び、日本薬局方に収録されています。十葉の煎液には利尿作用、高血圧、動脈硬化の予防作用などがあります。臭気は殆ど無く、また、湿疹、かぶれには、生薬をすり潰したものを貼り付けると良いと云われます。ドクダミは、ゲンノショウコ・センブリ等と共に日本の民間薬の代表的なものです。**○副作用**：ドクダミ茶の飲用による副作用が報告されています。  
**●高カリウム血症、肝機能検査 (GOT, GPT) の上昇例が報告されているそうです。**

★撮影月日：2018, 6, 2, ★撮影場所：仙谷地区



ドクダミ (葎草)、ドクダミ科、ドクダミ属



クサイチゴ (葎草)、バラ科、キイチゴ属



ワサビ (山菜)、アザミ科、ワサビ属



ヨバシク (山菜)、イネ科、ヨバシク属



ホタルブクロ (山菜)、キキョウ科、ホタルブクロ属



ツルアリドオン (薬膳用)、アカネ科、ツルアリドオン属



ホコリタケ (山菜)、バラ科、ホコリタケ属、別名「白しづな」(山菜)、「黒いしづな」(山菜)



大山町史によると、ふもとの集落では、真ん中の高い山を唐山と呼び、東側の山と西側の山をそれぞれ高麗山、大平山と呼んでいて、昭和の初めまで草生地で、唐山は空山と云われてたそうです。しかし、三つの山を総称して高麗山と呼ぶのが一般的だそうです。  
 (参考：東宮マサヨシ氏の著書「2014」)



ヤマムササキ (葎草)、シソ科「タマツヅク」科、ムラサキシキブ属



スイカズラ (葎草・忍冬)、スイカズラ科、スイカズラ属



ムラサキシキブ (紫式部)、シソ科「タマツヅク」科、ムラサキシキブ属



ヤマザクラの果実 (サクランボ)



マツバウンラン (松葉海蘭)、ゴマノハグサ科、ウンラン属

◎マツバウンラン (松葉海蘭)、ゴマノハグサ科、ウンラン属。1~2年草。○別名：不明 ○名前の由来：葉は松葉の様な針状で、地表近くの葉は蔓の様に匍匐して増え、花形が海辺に咲くウンラン (海蘭) に似ている事から。○花言葉：「喜び」「輝き」、●北アメリカ原産の帰化植物で歴史は新しく、1941年に京都で発見されたのが最初。春、地面のロゼット状の葉から細く長い茎を伸ばし、美しい薄紫色の唇状小花を数輪付ける。花形は仮面状花冠 (昆虫が膨らんだ部分に乗ると蜜へのアプローチが現れ、雄蕊・雌蕊が顔を出す) と云う独特の構造をしています。  
 ★撮影月日：2018, 6, 2, ★撮影場所：妻木新山地区

★むきばんだを歩く会★

- 指導：鷲見寛幸先生 (鳥取県自然観察指導員)
- 毎月第1土曜日午前9時30分~正午
- 入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ：むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」